

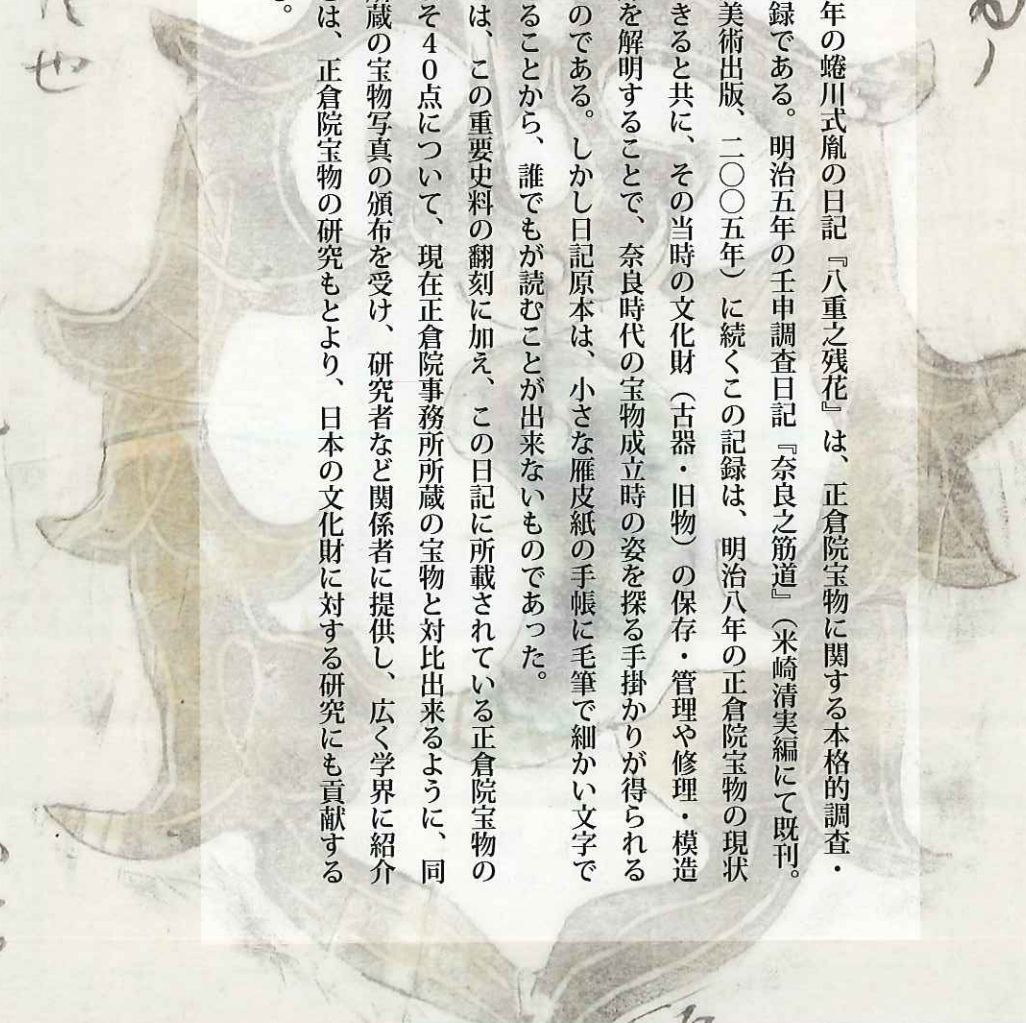
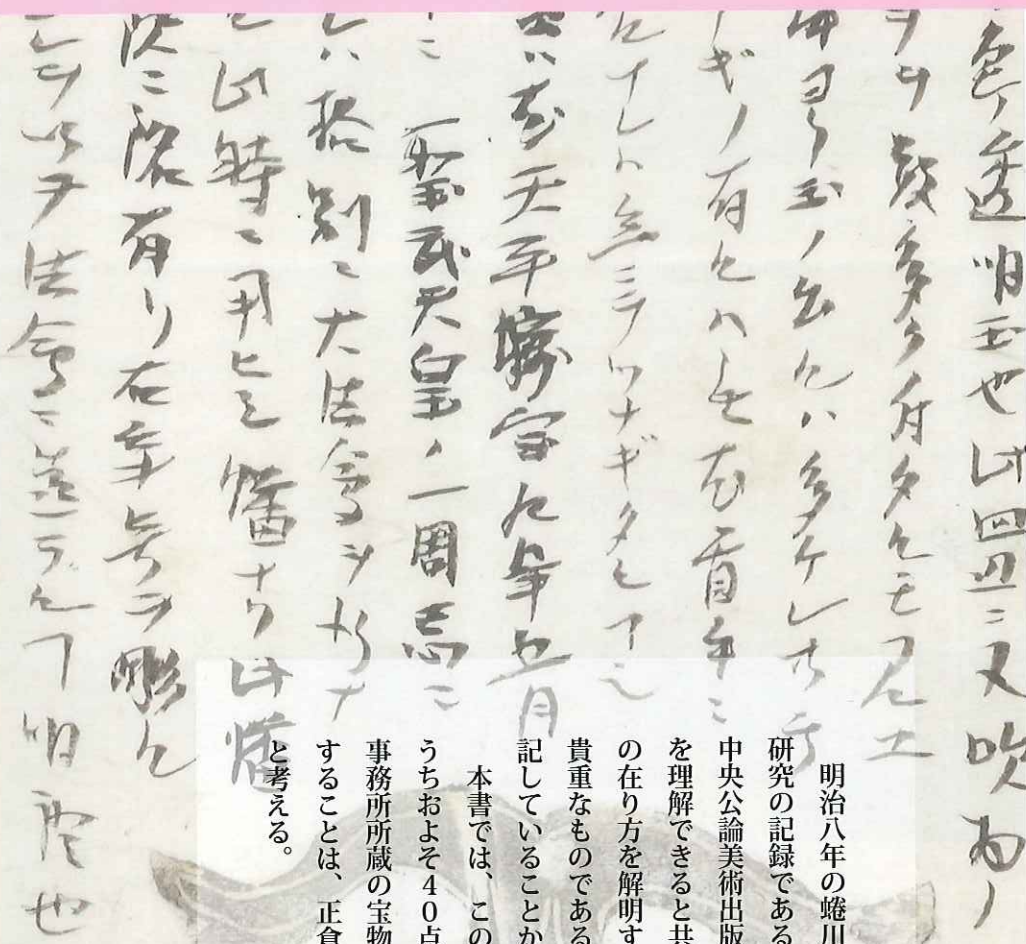
蜷川式胤「八重の残花」

米田雄介（元正倉院事務所長）編

A5変型 上製函入 カラー図版六四ページ 本文二六八頁

ISBN 978-4-8055-0853-4 C3021

本体価格 一、二、〇〇〇円＋税



明治八年の蜷川式胤の日記『八重之残花』は、正倉院宝物に関する本格的調査・研究の記録である。明治五年の壬申調査日記『奈良之筋道』（米崎清実編にて既刊。中央公論美術出版、二〇〇五年）に続くこの記録は、明治八年の正倉院宝物の現状を理解できると共に、その当時の文化財（古器・旧物）の保存・管理や修理・模造の在り方を解明することで、奈良時代の宝物成立時の姿を探る手掛かりが得られる貴重なものである。しかし日記原本は、小さな雁皮紙の手帳に毛筆で細かい文字で記していることから、誰でもが読むことが出来ないものであった。

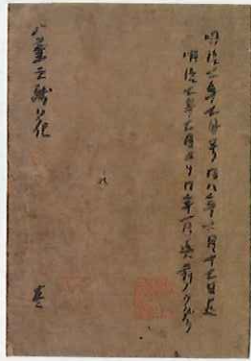
本書では、この重要史料の翻刻に加え、この日記に所載されている正倉院宝物のうちおよそ40点について、現在正倉院事務所蔵の宝物と対比出来るように、同事務所蔵の宝物写真の頒布を受け、研究者など関係者に提供し、広く学界に紹介することは、正倉院宝物の研究もとより、日本の文化財に対する研究にも貢献する

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1 IVYビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い



蜷川式胤 (にながわ・のりたね)

「観古図説」、「徴古図説」、「好古図説」などを編纂、刊行した好古家。明治政府に出仕し、明治初期の博覧会の開催に携わるとともに、博物館の建設を推進した。またモースやキヨソーネなど当時来日した外国人と親交が深く、日本の古美術を海外に紹介した。蜷川は日本の近代国家成立期の文化行政において、きわめて重要な役割を果たした。

編者略歴

米田雄介 (よねだ・ゆうすけ)

一九三六年 兵庫県に生まれる

一八六四年 大阪大学大学院博士課程単位取得退学
以後、宮内庁書陵部編修課長、正倉院事務所長、県立広島女子大学・神戸女子大学教授等を歴任
現在、公益財団法人古代学協会理事、県立広島女子大学・神戸女子大学名誉教授、文学博士

【主要著書】

『郡司の研究』(法政大学出版局、一九七六年)、
『正倉院宝物の歴史と保存』(吉川弘文館、一九九八年)、
『正倉院宝物と日本文化』(吉川弘文館、一九九八年)、
『歴代天皇と年号事典』(編著、吉川弘文館、二〇〇三年)、
『撰関制の成立と展開』(吉川弘文館、二〇〇六年)、
『正倉院宝物と東大寺献物帳』(吉川弘文館、二〇一八年)。



八重の残花 巻

関連書籍

※在庫僅少

蜷川式胤「奈良の筋道」

米崎清実 編著

本体価格 13,000 円+税

A5 判上製函入 本文 480 頁 口絵 1 丁 挿図 110 点

ISBN 978-4-8055-0492-5 2005 年 2 月刊行

宮廷物質文化史

猪熊兼樹 著

本体価格 15,000 円+税

A5 判上製函入 本文 384 頁 カラー口絵 16 頁 挿図 248 点

ISBN 978-4-8055-0768-1 2017 年 8 月刊行